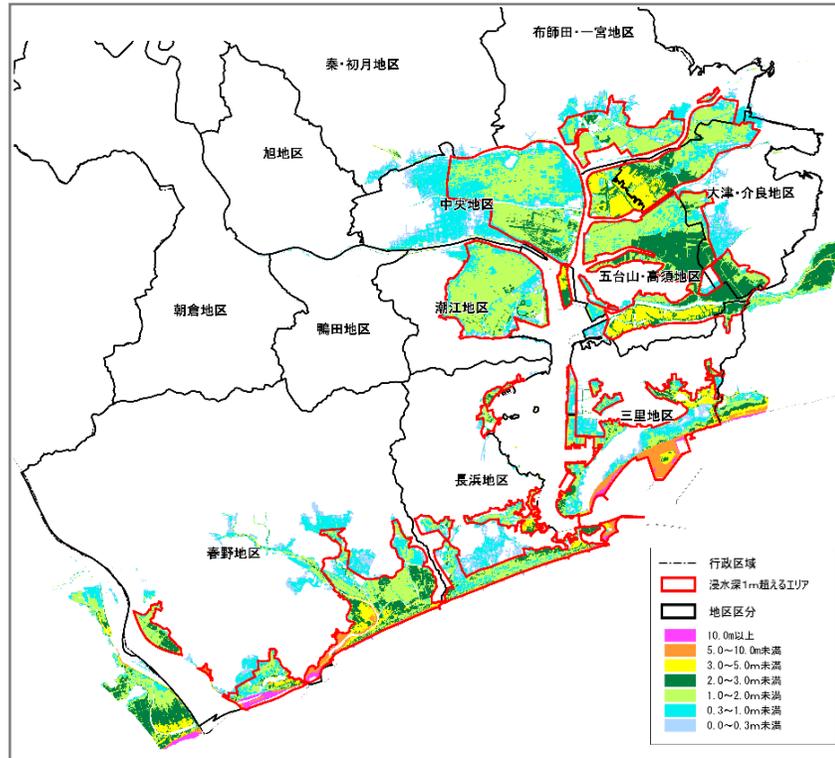


地区別事前復興まちづくり計画について

計画策定の目的

「復興基本方針」に基づき地区特性を踏まえ、復興の考え方と整備の方向性をあらかじめ検討し、**早期復興**につなげる。



対象地区

高知県が令和6年5月に公表した新しい津波浸水シミュレーションを基に、計画策定の対象となる地区（全8地区）を決定。

- 潮江
- 三里
- 中央
- 長浜
- 春野
- 五台山・高須
- 大津・介良
- 布師田・一宮

進め方

①計画案の作成



②地元ワークショップ開催※



③意見反映・計画策定



※意見収集方法：ワークショップ(WS)／意見投稿プラットフォーム／中学生アンケート

計画策定の進捗（全8地区）

進捗の概要（全8地区）

意見収集中

2 地区

WS等実施・意見整理段階

実施準備中

3 地区

WS等準備(体制・日程・資料など)

計画案作成中

3 地区

計画案作成・内部調整

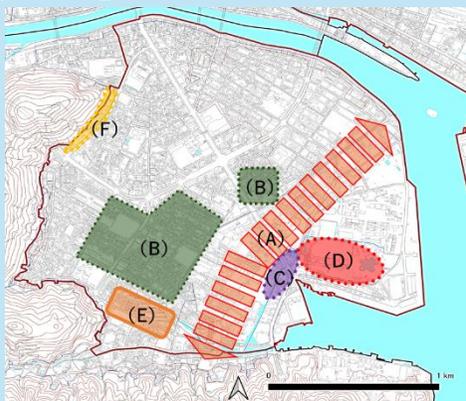
地区別進捗一覧

地区名	最新状況(要約)	次の対応(要旨)
潮江	[意見収集中]WS実施(2/3)、意見整理 	計画案に意見反映、3～5月に3回目のWS実施予定
三里	[意見収集中]WS実施(2/3)、意見整理 	計画案に意見反映、3月に3回目のWS実施予定
中央	[実施準備中]WS実施内容調整中 	2月から1回目のWSを実施
長浜	[実施準備中]WS日程調整中 	参加者募集、開催案内
春野	[実施準備中]計画案作成済み 	下記の3地区と同時期にWS実施(今後調整)
五台山・高須	[計画案作成中]計画案作成中 	復興パターン等の検討
大津・介良	[計画案作成中]計画案作成中 	復興パターン等の検討
布師田・一宮	[計画案作成中]計画案作成中 	復興パターン等の検討

潮江地区：計画案（復興パターン案）と主な意見

<計画案>

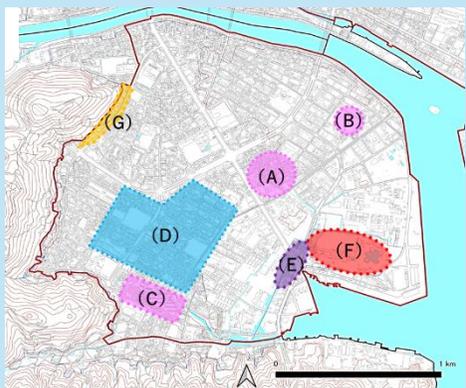
【第1案】二線堤形成案



広範囲にわたる浸水深1～2mエリアの津波安全性の向上対策として二線堤を整備

- (A) 二線堤
- (B) 区画整理事業
道路基盤整備検討
- (C) 建築制限による誘導
1階部分の非居住化
- (D) にぎわい形成
にぎわい施設の立地誘導
- (E) 市営住宅有効利用
空き室の利用を検討する
- (F) 土砂災害対策

【第2案】防災拠点形成案

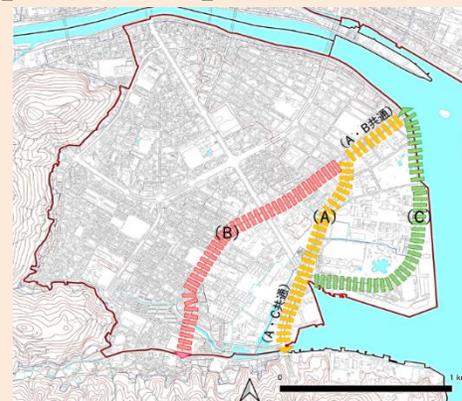


安全性の高い中高層階の居住と防災機能を向上する公共施設を拠点として整備

- (A) 防災拠点+嵩上げ（賑わい+居住）
共同化、再開発事業による高層化
- (B) 防災拠点（萩公園：高台整備）
津波避難機能の整備
- (C) 防災拠点（市営住宅有効利用）
空き室の利用を検討する
- (D) 嵩上げ+区画整理事業
道路基盤整備検討
- (E) 建築制限による誘導
1階部分の非居住化
- (F) にぎわい形成
にぎわい施設の立地誘導
- (G) 土砂災害対策

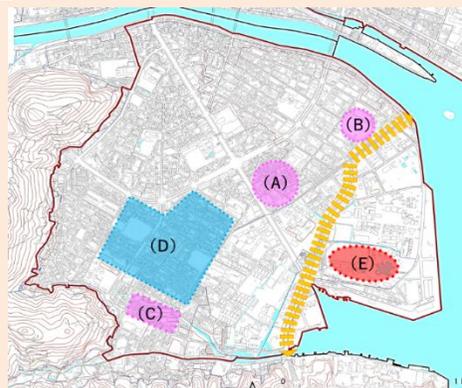
<修正案（第2回WSで提示・意見とりまとめ）>

【二線堤形成案】 住民の意見を基に二線堤ルートを3案提示



- (A) (原案)
新田町萩町一丁目線～
潮新町線ルート
- (B) (内陸配置案)
新田町萩町一丁目線～
旧中堤～市道潮江6号
線ルート
- (C) (沿岸部配置案)
市道潮江355号線～県
道～高知駅高知港線
ルート

【二線堤形成案と防災拠点形成案の複合案】



- 二線堤 新田町萩町一丁目線～
潮新町線ルート
- (A) 防災拠点+嵩上げ（賑わい+居住）
共同化、再開発事業による高層化
- (B) 防災拠点（萩公園：高台整備）
津波避難機能の整備
- (C) 防災拠点（市営住宅有効利用）
空き室の利用を検討する
- (D) 区画整理事業
道路基盤整備検討
- (E) にぎわい形成
にぎわい施設の立地誘導

計画案に
対する

【第1案について】

- 津波の被害から守られる範囲が広い
- 浸水深が軽減できるので将来的に安心できる
- 二線堤の位置の検討が必要
- 二線堤より外側の人たちを守るべき

【第2案について】

- 地震による津波だけでなく、水害にも効果を発揮しそう
- 防災拠点の施設の耐用年数の問題がある（復興後に地震が発生した場合に耐えられるのか）
- 萩公園を防災拠点に活用するのは良い

【両案に共通】

- 1案と2案を合わせた案が良い
- 人口が減少する将来を考えてコンパクトシティにするとよい
- 住民の合意形成に時間がかかる
- 区画整理事業によって住みやすくなるなら、同じ場所に住み続けたい



住民の意見

三里地区：計画案（復興パターン案）と主な意見

<計画案>

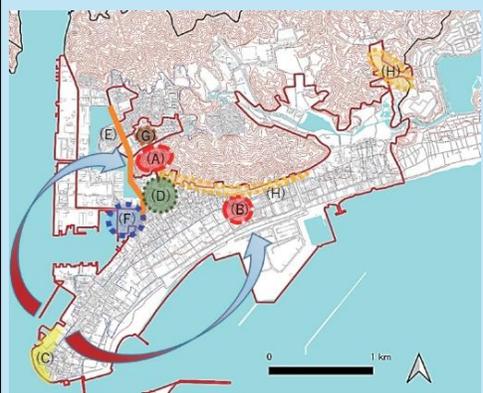
【第1案】嵩上げ案



被害が大きいと想定される種崎地区を嵩上げすることで現地で住み続けることができる

- (A) 嵩上げ(区画整理事業)
- (B) 区画整理事業
- (C) 二線堤(県道35号)
- (D) 住工複合ゾーン
- (E) 災害公営住宅の整備
- (F) 土砂災害対策

【第2案】移転対応案



被害が大きいと想定される種崎地区を安全な場所へ移転することで、生命や財産を保護する

- (A) 高台移転
仁井田公園と市有地の山林を活用した新市街地整備
- (B) 内陸移転
ふれあい広場と未利用の私有地を活用した新市街地整備
- (C) 移転元地(建築制限)
- (D) 区画整理事業
- (E) 二線堤(県道35号)
- (F) 住工複合ゾーン
- (G) 災害公営住宅の整備
- (H) 土砂災害対策

計画案に対する

住民の意見

【第1案について】

- ・ 嵩上げ範囲を浸水エリア全体もしくは広範囲にしてほしい
- ・ 狭い道路を拡幅してほしい
- ・ 住み慣れた地域で再び住みたい
- ・ コミュニティの維持ができる

【第2案について】

- ・ 移転候補地として千松公園や大平山・大畑山を活用できないか
- ・ 公共交通機関など生活の利便性が悪くなるのではないか
- ・ コミュニティの分断と移転先での人とのつながりが不安

【両案に共通】

- ・ 災害公営住宅は高齢者に配慮したものにしてほしい
- ・ 二線堤によって近隣の分断や利便性が悪くなるのではないか
- ・ 災害に強いまちにしたい
- ・ コンパクトなまちを目指したい



<修正案（第2回WSで提示・意見とりまとめ）>

【嵩上げ案】

「(嵩上げ範囲等の)津波安全性の十分な検討」、「災害公営住宅への対応の検討等」を付記。
 「嵩上げ地区の拡大とあわせて種崎地区の道路ネットワーク整備」を検討し、以下の3案を提案した。

1-B案 一体嵩上げ型	1-C案 浸水エリア一体嵩上げ型	1-D案 地区道路ネットワーク形成型
種崎地区全体を一体嵩上げ案・区画整理 ・種崎地区の面的基礎整備による地区全体の津波安全性・居住環境・利便性等の向上	種崎地区の浸水エリア全体を一体嵩上げ・区画整理 地区道路のネットワーク整備 ・浸水エリア全体の津波安全性・居住環境・利便性等の向上 ・主要な道路ネットワーク整備による周辺市街地の居住環境・利便性等の向上	甚大な津波被害想定地区の嵩上げ・区画整理 地区道路のネットワーク整備 ・甚大な津波被害想定地区の津波安全性・居住環境の向上 ・主要な道路ネットワーク整備による周辺市街地の居住環境・利便性等の向上
<ul style="list-style-type: none"> ■ 嵩上げ(区画整理事業) ■ 県道 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 嵩上げ(区画整理事業) ■ 市道 道路整備(4m) ■ 県道 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 嵩上げ(区画整理事業) ■ 市道 道路整備(4m) ■ 県道

【移転対応案】

「差し込み移転を含む近接地区での移転先の検討」及び「高齢者等を中心とした災害公営住宅の供給等の検討」を付記。
 移転先として提案のあった千松公園周辺、大平山等については、関係課と協議して可能性を検討した上で、現時点では移転先として計画に反映することが困難と判断。

事業スケジュール

令和5・6年度 復興基本方針の策定（令和6年11月完了）
 令和6・7年度 地区別事前復興まちづくり計画（案）の作成
 令和7・8年度 ワークショップ等により計画に住民の意見を反映
 令和8年度末 事前復興まちづくり計画 完成

